

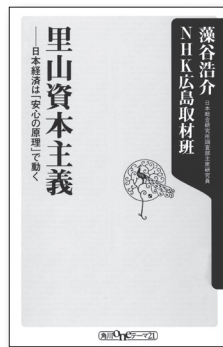


A5判 140ページ
定価 940円
早稲田大学出版部

「ともに創る！ まちの新しい未来」は、早稲田大学が二〇二二年度にJ A 共済寄付講座として設置した特別講義「震災復興のまちづくり」の講義録だ。早大では東日本大震災後、復興研究拠点の設立やボランティアの派遣をはじめ、多くの研究や支援プロジェクトが活発に展開されてきている。知識の創造・普及・保存という大学の使命の一端を担おうと発刊が開始された『早稲田大学ブックレット』「震災後に考える」シリーズの一冊では、復興塾と呼ばれた特別講義の観光班における取り組みで、「気仙沼へ行こうよ」から「気仙沼で会おうよ」へと、新しい新たなツーリズム構築の必要性にたどり着いた学生たちの思いも記されている。大震災から立ち直ろうとする人々の営みや支援活動、それらを支える研究の中に新たな知の誕生を探索し、リアルタイムで社会に提供するシリーズの今後に期待したい。

(挑全)

本書『ともに創る！ まちの新しい未来』（早田幸・加藤基樹・沼田真一・阿部俊彦編著、早稲田大学出版部）は、早稲田大学が二〇二二年度にJ A 共済寄付講座として設置した特別講義「震災復興のまちづくり」の講義録だ。早大では東日本大震災後、復興研究拠点の設立やボランティアの派遣をはじめ、多くの研究や支援プロジェクトが活発に展開されてきている。知識の創造・普及・保存という大学の使命の一端を担おうと発刊が開始された『早稲田大学ブックレット』「震災後に考える」シリーズの一冊では、復興塾と呼ばれた特別講義の観光班における取り組みで、「気仙沼へ行こうよ」から「気仙沼で会おうよ」へと、新しい新たなツーリズム構築の必要性にたどり着いた学生たちの思いも記されている。大震災から立ち直ろうとする人々の営みや支援活動、それらを支える研究の中に新たな知の誕生を探索し、リアルタイムで社会に提供するシリーズの今後に期待したい。



新書判 308ページ
定価 781円
角川書店

「里山資本主義」は、高速交通インフラ整備・工場団地造成・観光振興だった。しかし、この三種の神器をもってしても、「まったく発展しなかった」地域は少なくない。最近になって、先祖が里山に営々と築いてきた暮らしに新しい価値を付加することで、前近代からの資産を、21世紀の資産として復活させるケースも出てきた。過疎・高齢化が進む周防大島では、身近な果樹を原料とするジャム専門店が海の見える場所に開業。併設したカフェには、山口市や広島市からジャム目当ての客が大勢やってくる。本書『里山資本主義』（藻谷浩介・NHK広島取材班著、角川書店）は、全国レベルでは「マネー経済の縮小」に見えても、地域レベルでは「里山経済の活性化」という現象が、地域振興におけるマネー資本主義との決別と里山資本主義へのシフトという、コベルニクスの転回の重要性を教えてくれる。

新着図書紹介

高度成長期以降の地域振興における「三種の神器」は、高速交通インフラ整備・工場団地造成・観光振興だった。しかし、この三種の神器をもってしても、「まったく発展しなかった」地域は少なくない。最近になって、先祖が里山に営々と築いてきた暮らしに新しい価値を付加することで、前近代からの資産を、21世紀の資産として復活させるケースも出てきた。過疎・高齢化が進む周防大島では、身近な果樹を原料とするジャム専門店が海の見える場所に開業。併設したカフェには、山口市や広島市からジャム目当ての客が大勢やってくる。本書『里山資本主義』（藻谷浩介・NHK広島取材班著、角川書店）は、全国レベルでは「マネー経済の縮小」に見えても、地域レベルでは「里山経済の活性化」という現象が、地域振興におけるマネー資本主義との決別と里山資本主義へのシフトという、コベルニクスの転回の重要性を教えてくれる。

利用状況

ベストリーダー（2013年8月～2013年10月）

当図書館への来館者によく閲覧されている本を紹介。

【旅行ガイドブック部門】

海外旅行では、

- ・『地球の歩き方オーストラリア2013-2014』（ダイヤモンド・ビッグ社）
- ・『るるぶバリ2013』（JTBパブリッシング）
- ・『地球の歩き方パリ&近郊の町2013-2014』（ダイヤモンド・ビッグ社）

国内旅行では、

- ・『るるぶ青森 弘前 奥入瀬 白神山地2013』（JTBパブリッシング）

【一般読み物部門】

- ・『JTBLレポート 2013 日本人海外旅行のすべて』（JTB総合研究所）
- ・『観光ビジネス未来白書 2013年版』（加藤弘治著、同友館）
- ・『旅行者動向2012-国内旅行マーケットの実態と旅行者の志向』（公益財団法人日本交通公社）

館長のつぶやき

「グルメ旅行で、行ってみたい場所はどこですか」。当財団が毎年実施している旅行者動向調査。行き先を答えてほしいのに「カニ」という回答が多いのに驚く。「カニ」はいつから旅行の「目的地」になったのか？そこで「旅の図書館」でデジタル公開している「旅」のバックナンバーから「カニ」特集を検索する。1960年2月号が最も古い。ただし手書き挿絵のエビ・カニ図鑑のような読み物「冬の海幸 エビとカニのすべて」。これが80～90年代、みるみる冬の旅特集の定番と化していく様がよく分かった。

10月より旅の図書館長と観光研究情報室長を兼務することになりました。（久保田）

特別展示のご案内

なぜ人は旅をするのか？

2014年1月6日(月)～2014年2月28日(金)

本展では、「なぜ人は旅をするのか？」という問いかけをキーワードに、観光心理学に関する専門書や旅の歴史に関する国内外の図書等を展示いたします。

近年、旅行者の心理や行動を科学的に解明しようとする試みが注目されています。

日常生活から解放されたい、楽しい時間を過ごしたい、家族や友人と一緒に時間を楽しみたい、新しいことを知りたいなど、人間の欲求から旅の動機を考える研究や、旅行経験と動機の関係などについての探究が進んでいます。旅人の“ころ”を知ることは、人の生きがいや幸福感につながる“観光”を考える出発点となるでしょう。

旅の歴史から「どのような旅をしてきたのか」を振り返ることも、現代の私たちの旅への動機や行動を理解し、その上で観光の未来を考えるための多くの示唆を与えてくれるはずです。

ぜひ多くの方に当館を訪れていただきたいと思います。

*詳細は、ホームページ<http://www.jtb.or.jp/>へ、「旅の図書館特別展示」で検索